

西尾信用金庫（愛知県西尾市、石川清成理事長）が、現金自動預払機（ATM）内蔵カメラを利用して人工知能（AI）画像検知による特殊詐欺抑止に乗り出した。利用者の操作状況などから注意を促すとともに、場合によっては取引を中止する。これまで目視に頼っていた検知をAI導入によって、より多くの利用者を網羅できるようになる。福島信用金庫（福島市）も同じシステムを導入しており、全国の信用金庫に取り組みが広がりそうだ。（名古屋・星川博樹）

西尾信用金庫はこれまで店舗内のモニターでATM利用者の動作を確認。特殊詐欺の可能性があると判断した場合担当者が直接出向いて声がけし、取引内容を確認し、特殊詐欺を防止してきた。

4月に導入したシステムは、ATM利用者が振込先指定方法の選択画面で「都度入力」のは日立チャネルソリユーズ（東京都品川区）。5月に導入した福島信用金庫も同システムを採用。現手として全国の金融機関が注目しそうだ。

## AI画像検知で 特殊詐欺防ぐ

### 西尾信金、ATMカメラに導入



AI画像検知機能を試す西尾信金の職員

「これまでの目視だけでなくAIによりフォローできるお客さまが、係員を増える」（担当者）と、取引し、特殊詐欺抑止に期待を寄せる。

ATM内蔵カメラを業務の合理化が利用したAI画像検知が進む中、「一人システムの実用化は、西尾信金が全国初。両信用金庫には目立った効果は表れていない」と、日立チャネルソリユーズには問い合わせが相次いでいる。「特殊詐欺が後を絶たない中、可能な手段を講じたい」（同）。